

～包む～ 対をなす体験から得られるもの

塚の中に足を踏み入れた。湿った空気、カビの臭い、そして不気味な暗さに身が包まれたとき当時の人たちの声や感情が身体の中に流れ込んできたような気がした。

塚は戦争の悲惨な記憶に包まれていた。中に入ると当時のことを追体験できる。苦しくて辛いことだが大切な体験だと思った。

建築にできることは何だろう。

訪れる人たちを塚を包んでいた空間とは別の何かで包みたいと思った。心地よく吹き抜ける風、草木の匂い、落ち着く暗さ、平和の光…、包まれることで得られる安心感。

対をなす体験だからこそ塚での出来事がより鮮明に心に刻まれる。当時の人たちのことに思いを馳せながらこの場所から平和になった沖縄を望む。

そういう建築をめざした。

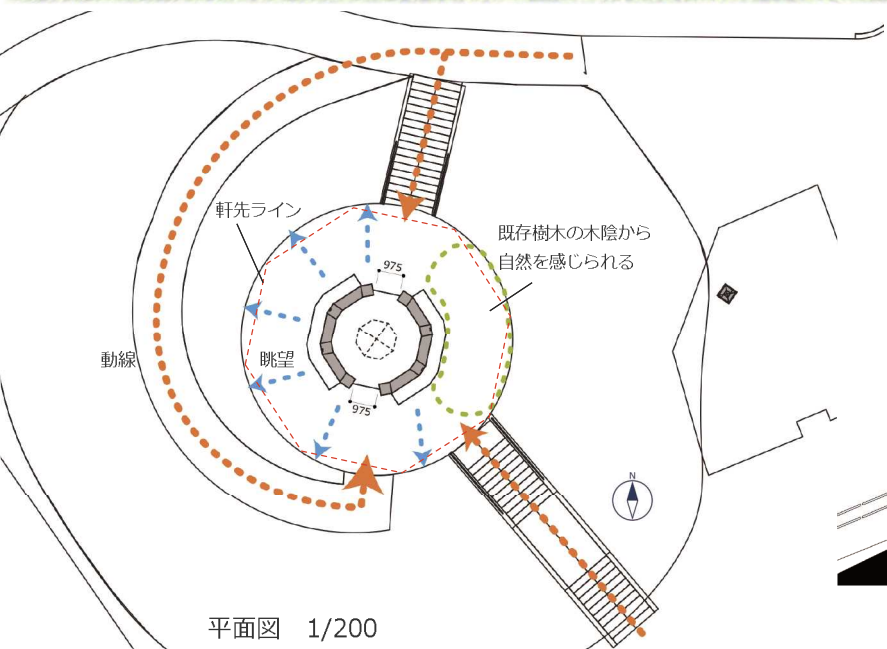
■施設概要

計画場所：豊見城市字豊見城 236 海軍塚公園

施設機能：展望機能・休憩機能

構造：鉄筋コンクリート造

延べ面積（トップライトを除く）：29.46㎡

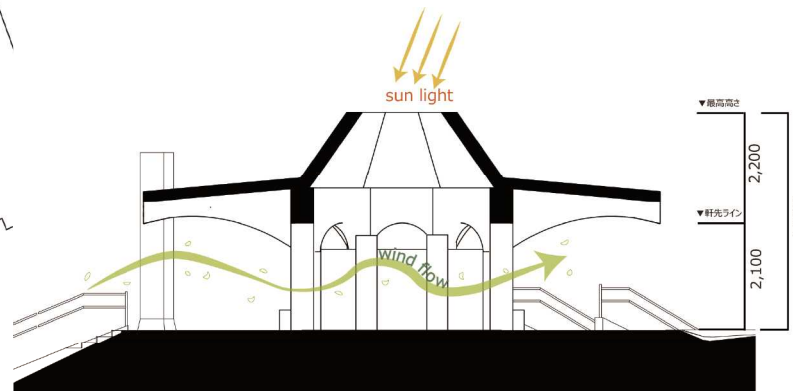


■形態について

展望施設内部を腰壁で囲み屋根をドーム型にすることで風が吹き抜けつつある程度囲まれた空間を作り出す。

トップライトからの光が内部を満たし塚の中とは対をなす体験を可能とする。

軒の出を深くし、アーチ梁、ヴォールト天井とすることで優しく包まれている感覚を得られる。





深い軒が影を生み出し、落ち着いた空間となる



内部空間：トップライトからの光が床の御影石に反射し神聖な空間を演出する



アーチ型の開口とし壕に入るかのような感覚をもたせることで



展望施設内部からトップライトを見上げる